

## 大樹でドルニエ使った次世代型航法システム

# 飛行試験スタート



「MSAS-GAIA」の評価試験に使われているドルニエ

### 技術確立で航空機の安全性向上

【大樹】独立行政法人航空宇宙技術研究所(本部東京、NAL)と同電子航法研究所(同、ENRI)は国土交通省航空局と協力して11日、大樹町多目的航空公園で実験用小型航空機ドルニエを使った次世代型航法システム「MSAS-GAIA」による飛行試験を始めた。同システムは全球測位システム(GPS)が発信する位置情報の誤差を補正し、精度や信頼性を向上させる役割を果たす。(浅井文人)

この技術が確立して実用化されれば、気象条件や電波状況に左右されず、全球規模で均一的に航空機の位置を正確に把握しながら飛行させることが可能となる。飛行の安全性が飛躍的に向上し、航空機の大量輸送にもつながるといふ。

現在の航空機の航法は、位置情報を得るために地上施設からの電波を利用するシステムなどを

「GAIA」は狭い範囲ではMSASよりも精密な誤差を把握できる。「MSAS-GAIA」は、両者の利点や特徴を組み合わせる。今回の試験は19日まで、衛星の代わりに、MSAS信号を国土交通省航空局の協力を得て統制局(神戸)から大樹町の多目的公園内にある実験棟へ送信、ドルニエへ伝送する。機上搭載のGAIAと組み合わせる補強情報を利用しながら、位置や速度、姿勢を確認して飛行させ、「MSAS-GAIA」の性能を評価していく。

利用している。ただ、洋上など電波の到達範囲に制限がある。このため、NALやENRIなどは、GPSを利用して位置や高度を計算しながら飛ぶ次世代航法の研究を進めている。

「MSAS」は国土交通省が2003年に打ち上げ予定の運輸多目的衛星を利用し、全アジア地域と